

高校再編について考える

城南中で意見懇談会

新宮市PTA連絡協議会

新宮市立城南中学校(中田善夫校長・育友会(金田有史会長)は10月28日夜、同校で意見懇談会を開いた。教職員と保護者15人ほどが参加し、「県立高等学校の今後の在り方」について話し合った。

新宮、新翔の両校統合も視野に入れた和歌山県立高校の再編問題に進学を控えた子どもを持つ保護者の意見を集約し、県教育委員会に要望を伝えようとする。同市立の小中学校育友会で活動する市PTA連絡協議会(市P連)が各校で会議や書面での調査を取り、保護者の意見聴取を行っている。

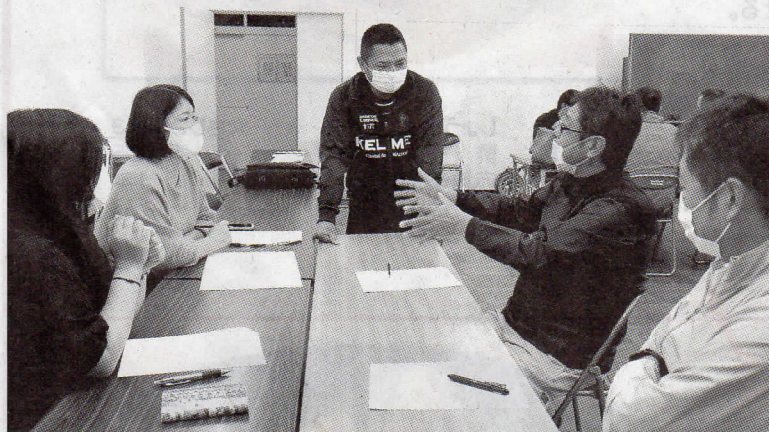
県教委は8月、「きのくに教育審議会」の「現在29ある県立高校(全日

制)の数を、今後15年で3分の2となる20校程度とするのが適正」などといった内容の答申を受け、9月27日に県立新宮高校体育館で行われた紀南エリア(東牟婁地域)懇談会を皮切りに、県内5地域で地方懇談会を開催。新宮・東牟婁地方の教育関係者や保護者など約150人が参加し、今後の県立高校の方向性や在り方について説明を受けた。

県教委では当初「各団体などで議論し、学校や県に集約した意見を上げていただければ」と、再度の説明会は行わないとしていたが、できる限り大勢の県民から意見を聞くことと11月末まで団体での懇談会実施を延長。市P連は

11月中旬に会議を行い、各校から寄せられた意見を集約して下旬に県教委との懇談会で思いを伝えるとしている。

この日の懇談会で育友会の板谷貴史副会長が今回の経緯と趣旨を説明した後、県内全体と東牟婁地方の中学校卒



さまざまな意見を出し合う参加者
＝10月28日夜、新宮市立城南中学校

業生徒数を表した推移グラフを示して「平成元年度に卒業した生徒は1287人。令和16年度を迎えると317人となり、約4分の1の子どもかもしれない恐れがある。人口減少が否めない中で、当地域にどういった高校を作るのが必要か、考えを出してもらい県教委に伝えていくことが重要」と呼び掛けた。

3グループに分かれた参加者は、それぞれの意見を交換し合って協議。「紀南の中心にある田辺の工業や農業科などを串本に作ってほしい」「新宮高を普通科、新翔高を専門科にできないか」「交通手段の問題はどうするか」など、さまざまな提案や質問などを出し合った。

金田会長は「人口減少に伴い、再編しなければならぬが、少し時間をかけて丁寧に進めていきたい。皆さんの意見を届けられるよう、しっかりと県教委に求めていければ」と話していた。

(榮本康人)